

令和5年度

事業報告書

令和5年4月1日から

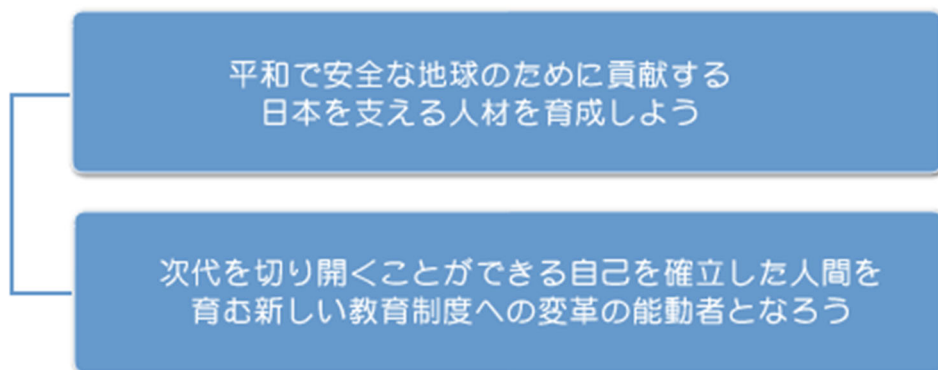
令和6年3月31日まで

学校法人 八洲学園

1. 法人の概要

(1) 学園のミッション

八洲学園では2つのミッション ステートメントを掲げております。



(2) 学校法人の沿革

- 1948年 奈良県においてヤシマ裁縫学院として奈良県知事の認可により創立。
- 1951年 私立学校法施行により、学校法人八洲学園を設立。ヤシマ文化学園並びに天理経理学校を併設する。
- 1952年 大阪市東区（現中央区）において大阪経理専修学校を設立。
- 1954年 大阪経理専修学校を玉造経理専門学校と改称。
- 1966年 玉造経理専門学校の発展に伴い通学の便をはかり、阪和線堺市鳳地区に鳳経理専門学校を設立。
- 1969年 大阪市天王寺区に玉造タイピスト学校を設立。
- 1976年 玉造経理専門学校、鳳経理専門学校、天理経理専門学校、ヤシマ文化学園が専修学校認可を受ける。
- 1977年 鳳経理専門学校高等課程が技能連携指定校（文部大臣認可）とし卒業生に高校卒業資格が与えられる。
- 1978年 鳳経理専門学校専門課程は産業能率短期大学との提携により通信制を併学し、短大卒業資格を得る。
- 1979年 鳳経理専門学校高等課程を分離し、鳳経理高等専修学校の設立認可をうける。
- 1985年 鳳経理高等専修学校の卒業生に、文部大臣より大学入学資格が与えられる。
- 1986年 玉造経理専門学校新校舎完成。鳳経理専門学校とともに校名を、ヤシマ情報経理専門学校と改称。
- 1992年 ヤシマ情報経理専門学校鳳校を廃校し、八洲学園高等学校の設立認可をうける。
- 1994年 ヤシマ情報経理専門学校に高等課程を設置
- 1995年 ヤシマ総合ビジネス専門学校（旧玉造タイピスト学校）をパソコンワープロカレッジ専門学校と改称。
- 1997年 八洲学園高等学校広域の認可を受け、東京本部（新宿区）を設置。
- 1998年 鳳商業高等専修学校を八洲学園高等専修学校と改称。
- 1998年 八洲学園高等学校梅田、渋谷、池袋会場を開設。
- 1999年 八洲学園高等学校上野、横浜、三ノ宮、京都、奈良会場開設。
- 2000年 八洲学園国際高等学校（沖縄）を設置。
- 2000年 八洲学園高等学校東京本部2号館完成。
- 2001年 パソコンワープロカレッジ専門学校内に学園本部を設置。
- 2002年 パソコンワープロカレッジ専門学校とヤシマ情報経理専門学校統合、西日本柔道整復専門学校設置。
- 2004年 八洲学園大学開学。
- 2006年 八洲学園国際高等学校を八洲学園大学国際高等学校に改称。
- 2017年 ESA音楽学院専門学校を設置。
- 2017年 福岡県那珂川町立福岡女子商業高等学校の移管を受け、福岡女子商業高等学校として設置。

(3) 設置する学校 (令和6年3月31日現在)

設置学校名	学(校)長名	学校所在地	学校設置認可年月日	男女校種別
八洲学園大学	水戸部 優子	神奈川県横浜市西区桜木町7-42	平成15年11月27日	男女
八洲学園高等学校	林 周剛	大阪府堺市西区鳳中町7-225-3	平成04年03月31日	男女
八洲学園大学国際高等学校	中村 成希	沖縄県国頭郡本部町備瀬1249	平成12年03月31日	男女
八洲学園高等専修学校	谷口 充	大阪府堺市西区鳳中町4-132	昭和54年04月01日	男女
ESA音楽学院専門学校	森上 芳郎	大阪府大阪市天王寺区玉造元町2-6	平成29年01月13日	男女
福岡女子商業高等学校	柴山 翔太	福岡県那珂川市片縄北1-4-1	平成29年03月09日	女

(4) 学部・学科・学生等の状況 (令和5年5月1日現在)

※大学は正科生のみで科目等履修生は含まない。

学校名	学部・学科等名	入学定員 (人)	入学者数 (人)	収容定員 (人)	在籍者数 (人)	収容率 (%)
八洲学園大学	生涯学習学部 生涯学習学科	入学定員 800 編入学定員 400	※ 91	4000	2423	60.6
八洲学園高等学校	通信制課程 (広域)普通科	—	605	3000	1829	61.0
八洲学園大学国際高等学校	通信制課程 (広域)普通科)	—	283	5000	1224	24.5
八洲学園高等専修学校	経理高等課程 商業科	40	32	120	72	60.0
ESA音楽学院専門学校	文化教養課程 吹奏楽学科	35	26	70	45	64.3
	吹奏楽実務学科	10	0	10	0	0.0
福岡女子商業高等学校	全日制課程 商業科	240	217	720	510	70.8

(5) 役員概要 (令和6年3月31日現在)

定員数 理事5~7名 実数5名 ・ 監事2~3名 実数2名 4年任期

役員名	職名 担当職名	氏名	常勤 非常勤	就任年月日 (重任年月日)	選任区分	主な現職等
理事	理事長	和田 公人	常勤	平成9年5月29日 (令和3年6月14日)	2号	理事長 (学)令徳学園理事長
理事		林 周剛	常勤	平成27年4月1日	1号	校長
理事	事業理事	小森 嘉之	非常勤	平成14年9月30日 (令和3年6月14日)	2号	会社役員
理事		吉原 和仁	非常勤	平成15年5月29日 (令和3年6月14日)	2号	元会社役員
理事		和田 みゆき	非常勤	平成21年6月14日 (令和3年6月14日)	3号	会社役員 (学)令徳学園理事
監事		加藤 卓	非常勤	平成25年6月14日 (令和3年6月14日)		税理士
監事		岡 正俊	非常勤	平成28年4月1日 (令和3年6月14日)		弁護士

(6) 評議員概要 (令和6年3月31日現在)

定員数 11~15名 実数12名 4年任期

氏名	主な現職等	選任区分	備考
水戸部 優子	八洲学園大学学長	1号	
林 周剛	八洲学園高等学校校長	1号	兼理事
谷口 充	八洲学園高等専修学校校長	1号	
柴山 翔太	福岡女子商業高等学校校長	1号	
中村 成希	八洲学園大学国際高等学校校長	2号	
石渡 知美	八洲学園職員	3号	
小森 嘉之	会社役員	4号	兼理事
吉原 和仁	元会社役員	4号	兼理事
和田 みゆき	会社役員 ・ (学)令徳学園理事	4号	兼理事
和田 公人	理事長 ・ (学)令徳学園理事長	5号	兼理事
古川 直季	国会議員	5号	
松本 真尚	会社役員	5号	

(7) 教職員の概要（令和5年5月1日現在）

		合計	八洲学園大学	八洲学園 高等学校	八洲学園大学 国際高等学校	八洲学園高等 専修学校	ESA 音楽学院 専門学校	福岡女子商業 高等学校
教 員	本 務	126	17	51	13	5	4	36
	非 常 勤	206	44	121	9	6	22	4
職 員	本 務	23	5	13	2	0	2	1
	兼 務	31	6	10	12	2	1	0

2. 事業の概要

(1) 事業の概要

当学校法人を取り巻く環境は、少子化の進行や経済状況の変化等により、厳しい状況にある。

このような中、各学校は以下の取り組みを行っている。

【八洲学園大学】

- ・「八洲学園大学 第三期中長期計画」（令和5～14年度）を開始した。
- ・「令和5年度自己点検評価書」を大学サイトに公開した。
- ・「内部質保証推進規程」に基づき、アセスメント・ポリシー等の計11の方針を策定し、内部質保証推進部会やIR推進部会を開催して自己点検・評価活動や内部質保証を促進した。
- ・メールマガジンの配信強化（入学希望目的別に応じた「今週届いたお問い合わせを紹介」）、SOBA マナベルによる「授業体験・入学説明会」の開始、「来校相談」の再開などにより、入学検討者との接触回数を増やすことで入学促進をはかった。
- ・アカデミック・スキル関連科目と文学系科目を担当できる専任教員2名を公募により採用した。
- ・新型コロナウイルス感染症対策として行っていた来校自粛を終了し、令和5年度は移行期間として事前申請制による来校受講を再開した。令和6年度からは事前申請制を廃止し、全ての授業を来校受講可とする。
- ・令和5年1月に施行した「障害学生支援規程」に基づく「修学上の配慮に関する申請書」の運用を開始し、合理的配慮に関するサポート体制を強化した。令和5年度は計16名の申請があり、希望に応じた支援を行った。
- ・令和5年度秋期から「科目評価アンケート」の送信時期を春期／秋期末ではなく、スクーリング履修は授業最終回の終了後、テキスト履修は試験レポート提出期間終了後に変更し、回答率の向上をはかった。
- ・令和5年度は「学生支援センターアンケート」を行った。その結果は令和6年度以降の学生支援センター業務に反映する。

- ・ アセスメント・ポリシーに基づくアンケートについて検討を開始し、令和5年度は卒業生アンケートを実施した。
- ・ 令和5年度学位記授与式から茶話会を再開し、卒業生や在學生と教職員の交流を促進した。

【八洲学園高等学校】

- ・ 通信制高等学校として、通学型のサポートクラス、通信型の通信クラス、技能連携校、科目履修生、中等部の生徒への教育活動
- ・ 教育講演会、体験活動など、教育関係者との情報交換や地域の方との交流の場を設け、社会貢献活動

【八洲学園大学国際高等学校】

- ・ 「高等学校教育を受けられなかった青少年に就学の機会を与えること」を主たる目的とし、全国各地幅広い地域・年齢の生徒を受け入れ。
- ・ 八洲学園大学との高大連携及びESA音楽学院専門学校との高・専連携事業を実施。
- ・ 地域の方々に本校教育活動へのご理解・ご協力を頂く中で、地域に根差した学校を目指し交流を深める。

【八洲学園高等専修学校】

発達障害を中心とする実践教育を更にすすめるとともに卒業後の進路において途切れない支援の在り方を進路先と連携していく。

【ESA音楽学院専門学校】

吹奏楽を職業にと考える人達の専門学校として、生徒のリペア技術の習得向上、演奏技術の習得向上を目指した。

「教務」

- ・ コロナ禍により中止していた春と秋の合宿を再開
- ・ リペア技術の習得（管楽器リペアコース）
- ・ 演奏技術の習得向上（吹奏楽コース）

【福岡女子商業高等学校】

本校の教育目標として、『「真の商業教育」の創造に向けて動き出す。生徒の可能性を本気で信じ、生徒の心に火を付ける、失敗歓迎、生徒の未来へアプローチし続ける』ということを掲げた。

本年度の重点目標は、以下の3つである。

- ・ 教職員の一人ひとりが学習者たれ！最新学習歴の更新
- ・ 継続的に選ばれる女子商へ。ステークホルダーからの信頼獲得
- ・ 「真の商業教育」の創造

そのほか、継続的目標として、生徒の力を引き出し、「進路に強い女子商」として女性活躍社会推進の能動者となる、生徒・職員ともにウェルビーイングを目指す、そして圧倒的当事者意識を挙げている。

これらの目標を中心としながら、今年度は特に、国際教育の推進や対話教育の充実を具体的な取り組みとして行った。

(2) 主な事業の目的・計画及び進捗状況

当該年度に実施した事業は以下の通りである。

【八洲学園大学】

・主な事業の目的・計画及び進捗状況

事項	概要	進捗状況
教育課程の体系的な編成	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習社会の実現のため、生涯を通して学び続けて社会の変化がさらに激しくなる時代を生き抜く意欲をもった人材を育成している。 ・知識基盤社会をたくましく、しなやかに生き抜くことのできる生涯学習者・生涯学習支援者を育成するカリキュラムを編成している。 ・ディプロマ・ポリシーに基づいた評価指標を明確にして、科目ごとの成績評価への厳正な適用を図っている。 ・カリキュラム・ポリシーに基づいた体系的な教育課程の編成を目指して、科目の開設と見直しを進めている。 ・実践的なプレゼンテーション能力、ディスカッション能力を培う演習科目など、課題発見・解決力や豊かな人間性の醸成に資する科目群を開設している。 ・学生や卒業生の視点を育成に反映させるためのアンケートを実施して、科目の新設に役立てている。 ・国家資格取得などの学びを通じて地域の活性化に貢献する人材を育成している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度に学生アンケートを実施し、意見・要望は全教職員（及びシステム関連は e ラーニングシステム会社）に共有し改善に役立てた。 ・令和5年6月30日に学長、総務委員長、教務委員長、事務局長、教務課長によるオンライン会議を開き、ディプロマ・ポリシーと科目の関連性を明確にする方針を確認した。 ・ディプロマ・ポリシーと科目の関連性に関するアンケートを実施し、結果を教員情報ページで共有した。
教員の能力開発と教授方法の工夫・開発	<ul style="list-style-type: none"> ・eラーニングシステムの特徴を生かしたアクティブラーニングを具現化する教育方法などの教授法を開発して拡充している。 ・eラーニングシステムの機能が多様なインターネット環境に応じて最適化されている。 ・FD (Faculty Development) 研修を実施して意見交換を行ない、eラーニングシステムを教育指導に活かすための能力の開発を図っている。 ・教員同士の交流の機会を作って、教育・研究の経験と問題意識を共有している。 ・グローバル化の進展により多様となったインターネット環境に対応できる学びのスタイルを提供している。 ・国内のどこからでも教員が配信し、学生が受講できるeラーニングシステムを整備している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度にSD・FD合同サロンをオンラインで開催した。 ・令和4年度秋期及び令和5年度春期科目評価アンケートについて各教員に個別の結果を通知し、集計結果を教員情報ページで共有した。 ・令和5年度FD研修（授業参観）を実施し、専任教員9名が参加した。 ・令和6年2月に「テキスト履修 教育の理念に基づく「課題発見・解決学習、について」を教員情報ページで共有した。 ・令和6年3月にFD研修会（SDと共催）「テキスト履修科目における学修指導の工夫：教育の質保証にむけて」を実施した（オンデマンド受講を含めて専任教員14名、非常勤講師3名、職員9名が参加）。

研究活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ・外部資金の公募情報を収集して提供し、応募を促進している。 ・外部資金の応募にあたって申請書類の作成を支援する体制を整備している。 ・図書館や研究室など教育・研究を行なうための設備の充実を推進している。 ・学術情報リポジトリを構築し、研究成果の活用を促進している。 ・適切な研究時間の確保を図るため、教育・研究以外の教員業務の効率化をさらに推進している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「個人研究費及び研究旅費に関する手引き」を作成した。 ・令和5年度の科研費は応募2件（不採択）、継続2件であった。 ・日本地理学会の災害地理学研究助成1件、大林財団の研究助成1件、マリア財団の研究助成1件、全国幼児教育研究協会の研究助成1件（リカレント研究センター）に採択された。
学生の受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> ・アドミッション・ポリシーに基づいて、多様な学生の受け入れを推進している。 ・特別な配慮を必要として入学を希望する人に対して入学支援相談の体制を整備している。 ・eラーニングシステムの機能を生かして、世界中どこからでも学べる環境を整備している。 ・入学検討者向けの模擬授業、オープンキャンパス、各種SNS(Social Networking Service)を活用した広報など多様な学生を受け入れるための取組を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年1月に「八洲学園大学 障害学生支援規程」施行し、「修学上の配慮に関する申請書」の運用を開始した。 ・令和5年2月からSOBA マナベルによる授業体験・説明会を開始した。 ・令和5年度は16名から「修学上の配慮に関する申請書」の提出があり、教務委員と職員がヒアリング面談を実施した上で各担当教員と連携して支援を行った。
学修支援体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の一人ひとりが自分の社会生活と両立して学び続けていけるように学修支援体制を整備している。 ・アカデミック・スキル関連科目の整備を通じて学修の促進を図っている。 ・自然災害などの非常事態を想定して、学修の継続を図るための学修支援体制の整備を検討している ・SD(Staff Development)研修・FD研修などの実施を通じて、教職員が教育の理念や学内外の問題・課題を共有し、一体となって学修支援に取り組んでいる。 ・学生同士の交流を促し、豊かな人間性の醸成に資する仕組みを整備している。 ・eラーニングシステムの機能を生かして、障害学生支援を実施している。 ・中途退学などの防止につながる取組を行っている。 ・学生のニーズに沿った多様な方法により授業を開講している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度から「レポートの書き方入門」をⅠとⅡに分けて内容を充実した。 ・修学上の支援対象の学生について、各科目の担当教員と職員のみが閲覧できるSOBA マナベル上のメモ機能に記録し、迅速かつ安全な情報共有を行った。また、支援を行った担当教員にアンケートを実施し、結果を教員情報ページで共有した。 ・令和5年度は教員引率の課外活動を計10件行った（オンライン交流会4件、オンライン+来校交流会4件、学外施設見学2件）。 ・事務局にて学生支援センターアンケートを実施した。 ・令和5年11月より来校者へのパソコン貸出（先着順・台数制限あり）を再開した。 ・令和5年度にアカデミック・スキル関連科目と文学系科目を担当できる専任教員を公募し、2名を採用した（令和6年度採用）。

<p>キャリア形成と就職支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化に応じて学生のキャリア形成や就職・転職活動を支援する体制の充実を図っている。 ・学生のキャリア形成や就職・転職活動に役立つような科目群を整備している。 ・卒業生を対象とした勉強会や交流会の開催など、卒業や資格取得後をフォローする仕組みを整備している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の就活セミナーはオンデマンド7講座とライブ3講座を実施した（ライブは計39名が受講）。 ・図書館流通センターとヴィアックスの会社説明会を実施した（オンデマンド受講を含めて計97名が受講）。
<p>運営体制の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学を取り巻く環境変化に応じて組織を柔軟に改編しながら、学長をはじめとする委員会、教授会等の役割と責任を明確にし、ガバナンスの強化を推進している。 ・教職員の提案などを各委員会、教授会等がくみ上げ、教職員の意思疎通と連携を適切に行い運営をしている。 ・中長期的な管理運営体制の視点に基づき有用な人材を計画的に確保するとともに、SDをはじめとする研修等により管理運営にかかわる教職員の人材育成をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年5月10日に第1回総務教務合同委員会を開催し内部質保証の方針等を確認した。 ・経済学分野の非常勤講師を公募し、1名の採用を決定した（令和6年10月採用）。 ・博物館学分野の非常勤講師の公募を行った（選考中）。 ・SDの一環として専任職名の勤務時間内の研修参加を推奨し、令和5年度は計13件を受講した。
<p>内部質保証の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内部質保証の評価の結果を大学運営の向上のために反映し、PDCAサイクルを機能させている。 ・IR (Institutional Research) によるエビデンスに基づく自己点検・評価を定期的に行っている。 ・自己点検・評価の結果を学内で共有し、情報を公開している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年4月に「自己点検・評価に関する規程」を改定した。 ・令和5年7月に「令和5年度自己点検評価書」を公開した。 ・令和5年6月に内部質保証に関する基本方針、内部質保証推進規程、内部質保証推進部会規程、内部質保証実施要領を策定、施行した。 令和5年7月、9月、12月にIR推進部会を開催し、IR情報ページの作成等を進めた。 ・内部質保証推進規程に基づく諸方針を策定した。 ・令和6年3月に「内部質保証推進規程」を改定した。 ・令和5年8月1日に第1回内部質保証推進部会を開催し、年度計画を立てた。 ・令和6年4月10日に第2回内部質保証推進部会を開催し、年度計画に対する実施状況を確認した。 ・令和5年度から学長、総務委員長、教務委員長による学長ミーティングを開始した。

<p>組織倫理、人権、安全管理の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究倫理の遵守を推進している。 ・ 人権に配慮した職場環境を促進している。 ・ 発災時の事業継続体制の構築などによる危機管理対策をしている。 ・ eラーニングシステムの安定的な稼働と情報セキュリティの強化を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部研究費獲得教員にメールによるコンプライアンス教育を行った。 ・ 総務委員会にて学内の情報管理について検討を開始した。 ・ 令和5年12月25日に火災を想定した消防訓練と避難器具 ORIRO の説明会を実施した（大学職員全11名、保育園の職員と園児、学園本部職員1名、教員1名が参加）。 ・ 令和6年3月21日に地震を想定した避難訓練と消火器の訓練を実施した（大学職員7名、保育園の職員と園児、学園本部職員1名が参加）。
<p>生涯学習社会の実現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地方自治体の生涯学習プログラムとの連携を進めている。 ・ 企業等と連携・協働する体制を強化し、職業人向けリカレント教育の充実を図っている。 ・ 生涯学習機関として社会の多様なニーズに応える公開講座を展開している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ (令和元年度から開講) 日本防災士機構に養成機関の認証を受けた「防災士養成講座」を2回開講した（計171名受講）。 ・ 令和4年度に続き横浜市こころの健康相談センターと連携した「ゲートキーパー養成講座」を2回開講した（計37名受講）。 ・ 神奈川県立図書館主催「第26回大学で学ぼう～生涯学習フェア～」に講座企画を提出したが今年度は不採用となり、資料提供で参加した。
<p>社会貢献活動の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育・研究の成果や施設・設備を活用して広く社会や地域に貢献することを推進している。 ・ 学生や教職員、卒業生等が行っている教育・研究の成果を社会や地域に還元する活動、またその他のボランティア活動等についての情報交換・発信を大学として推進している。 ・ eラーニングシステムの機能を活かして公開講座の充実を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和2年度に設置した「リカレント研究センター」について、令和5年度はリカレント研究員8名が活動した。 ・ 令和5年5月23日から附属図書館閲覧室の一般開放を再開した。 ・ 令和5年度はSOBA e-collegeによる公開講座を4講座開講した。

【八洲学園大学】

・施設・設備の整備計画

<p>令和5年度は、計画通り、下記を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年1回実施義務がある自家発電機負荷試験（管理会社の委託契約に組み込み費用を抑えて実施） ・保守期間が切れる複合機入替に備えた電源工事 ・消防設備点検で指摘を受けた自家発電機蓄電池交換工事 ・1階エントランスホールのLED化工事 ・全館の剥離清掃 <p>その他、急な案件として以下を対応した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究室で天井の破損を確認したことをきっかけとした、全館の天井の点検と必要な箇所の改修 ・非常放送アンプ異常調査 ・公開講座用電話回線の不通をきっかけとした、電話設備の調査、入替工事の見積 <p>令和6年度は、管理会社による修繕計画のうち最も緊急度が高いキュービクル内部部品更新工事を実施する予定である。また、余裕があれば、次に緊急度が高い火災報知設備更新と2階事務局移設工事、電話設備の入替工事も検討する。</p> <p>その他、将来に向け、学内ネット配線の刷新や屋上看板のフェンス塗装工事も引き続き課題である。</p>
--

【八洲学園高等学校】

・主な事業の目的・計画及び進捗状況

事項	概要	進捗状況
サポートクラス運営の定着化 ホームサポートクラスの入学者増	3学年がすべて揃ったサポートクラスの生徒入学者数を安定的に受け入れ、運営内容の充実を図り、運営を定着化させる。 また、不登校生や支援を要する生徒さんに対する、学習サポートをさらに拡充し、ホームサポートクラスの入学者数を増やす。	令和5年度の実績は会計書類参照
八洲学園中部（フリースクール）	中部部の登録者数を増やす。 不登校の中学生に対し新たな学び場を提供し、所属中学校への学習復帰の一助となる。	令和5年度の在籍者数 219名
支援を要する生徒さんへの就労支援の充実	支援を要する生徒さんへの就労支援の充実の為、校内模擬会社を設立し、生徒さんに入社から就労までの模擬体験を経験してもらう。	

【八洲学園高等学校】

・施設・設備の整備計画

事項	事業規模等	事業費	財源	実施時期
大阪中央校 1F 改修工事 事務 C1F 修繕工事 トイレ改修工事 横浜 LED 照明修繕工事 梅田キャンパス修繕工事	大阪中央校 事務 C 横浜分校 梅田キャンパス	R5 決算書に記載	R5 決算書に記載	令和5年4月～ 令和6年3月

【八洲学園大学国際高等学校】

・主な事業の目的・計画及び進捗状況

事項	概要	進捗状況
トップアスリート育成コース	3分野（格闘技・陸上・野球）で展開。 ①格闘技部門・・・小比類巻貴之氏（元K-1王者）総監督。 ②陸上部門・・・譜久里武氏（世界マスターズ陸上金メダリスト）のアスリート工房を中心に展開。 ③野球部門・・・石毛宏典氏（元プロ野球選手）監督。	・格闘技部門は5年度3月時点で6名在籍。 ・野球部門は7年度高野連加盟を目指して継続進行。
高大連携の具体化	高校と大学の連携・接続を深めることで、内部進学者をいっそう増やすと共に、大学のある学園の高校として入学見当者からの魅力向上をはかる。	令和5年度は、内部進学増加のため全生徒・保護者へ魅力周知を年間通して行った。
高専連携の推進	八洲学園大学国際高等学校と ESA 音楽学院専門学校との連携により、相互の学校の魅力を高め、内部進学へ導く。	定期演奏会に対応して演奏鑑賞を特別活動認定指定の周知活動を行った。
地域貢献・地域交流	地域の恒例行事となった少年サッカー・バスケット大会を主催し、地域貢献・地域交流を通して学校の知名度と好感度を浸透させる。地元教育委員会及び商工会の賛同・協賛も頂き、例年700名ほどが集まっている。	700名程集客して、地域の人々及び行政機関に学校の知名度・貢献度を浸透させた。

【八洲学園大学国際高等学校】

・施設・設備の整備計画

事項	概要	進捗状況
大型バス購入	経年劣化が進み、故障も相次いでいるため、中古車両を購入する。	購入完了
空調機器の更新	宿舎棟2台、職員室棟4台の取替工事を行う。	取替工事完了

【八洲学園高等専修学校】

・主な事業の目的・計画及びその進捗状況

事項	概要	進捗状況
学校関係者評価	生徒職員以外の大学・就職先の人による評価	11月実施
第19回全国専攻科大会	コロナ以後のものとして全国集会を予定	11/11.12 大阪にて開催
他関係学会での参加・発表	特殊教育学会・特別ニーズ教育学会での参加発表	19回全専研集会出席のため、参加できず。

その他、国立大学法人研究室との連携として、6月に大学市民講座での実践報告を行い、障がい青年たちの青年期の学びを捉え直すことをテーマに公開講座を行なった。

【八洲学園高等専修学校】

・施設・設備の整備計画

事 項	事業規模等	事業費	財 源	実施時期
耐震化工事第三弾	3,000,000	修繕費	自主財源	令和5年11-12月

【ESA 音楽学院専門学校】

・主な事業の目的・計画及び進捗状況

【教務】		
事項	概要	進捗状況
学生間・学生教職員間の連携強化	4月に学生懇親合宿を実施 10月に集中練習合宿を実施	4月10月ともに福井県三方青年の家で実施
楽器店及びリペア工房への就職	楽器構想及び音楽の歴史等の知識を府深め・リペア技術の習得を行う	楽器店・リペア工房・楽器製造会社へ就職
演奏家の育成	演奏表現及び音楽の歴史等の知識を深め・演奏技術の習得を行う	本学科目履修生登録
自衛隊・消防・警察等の音楽隊への入隊	演奏表現及び音楽の歴史等の知識を深め・演奏技術の習得、公務員試験対策を行う	自衛隊音楽隊へ入隊
音楽留学を目指す	演奏表現及び音楽の歴史等の知識を深め・演奏技術の習得、留学先で使用する言語習得を行う	コロナ禍により希望者なし
一般就職	吹奏楽を学びながら一般職を目指す	一般職就職 一般製造業就職
【広報】		
事項	概要	進捗状況
入学希望者の来校機会の設定	夏の体験入学 春の体験入学を実施	予定通り実施
受入れ学生対象の拡大 学生定員数の確保	WEB広告の利用	ベスト進学ネット・みんなの専門学校情報・マイナビ進学サイト・スタディサプリへの広告掲載。

【福岡女子商業高等学校】

・主な事業の目的・計画及び進捗状況

事項	概要	進捗状況
国際教育の推進	留学希望生の参加希望増加を図る。	ミュージックアウトリーチの実施。 トビタテ留学ジャパンへ3名参加。
対話教育の充実	対話による相互理解を教員、生徒ともに取り組む。	対話プログラムを教員、生徒とも年3回以上実施。対話への声かけに対してスムーズに反応できるようになった。
広報活動の充実	オープンスクールへの参加校数増、及び本校理解度向上を目指す。	オープンスクール4回、中学校訪問、出前授業、校長講話依頼の実施。
経営実習の強化	商業教育の集大成として女子商マルシェをとらえる。	協力企業49社と生徒が連携し、学年やクラスの枠を超えて運営した。
自由について考える教育	カジュアルデーやスマートフォン自由化を契機として考える。	私服登校でも良い日を3回実施、次年度からのスマホ解禁に向けて、自由の可能性を自分たちで考える。
進路指導の強化	進路について、早期で柔軟な取り組みを後押しする。	進路指導室を改修し、より足の運びやすい、相談しやすい環境を作る。

【福岡女子商業高等学校】

・施設・設備の整備報告

事項	事業規模等	事業費	財源	実施時期	備考
校内エアコン更新	各クラスルーム、校長室、保健室、国際交流室、図書室	14,972,000	学生生徒等納付金収入	8月	空気清浄機能付き
第1棟西側トイレ改修工事	1階から3階の和式トイレを洋式トイレに改修	24,000,000	学生生徒等納付金収入および国庫補助金	7月～8月	
生徒用PC端末クロムブック購入	150台分購入	7,804,500	県補助金および国庫補助金	8月	
スクールバス追加購入	中古の大型バスを購入	5,276,080	学生生徒等納付金収入	6月	

(3) 施設等の状況

現有施設設備の所在地等の説明

主な施設設備の状況は次の通りである。

ア) 土地

所在地	部門	専用面積	取得価額
神奈川県横浜市西区桜木町	八洲学園大学	838.40 m ²	658,288 千円
東京都新宿区新宿	八洲学園大学	162.00 m ²	300,552 千円
大阪府堺市西区鳳中町	八洲学園高等学校	992.00 m ²	105,000 千円
大阪府堺市西区鳳中町	八洲学園高等学校	327.00 m ²	72,000 千円
大阪府堺市西区鳳中町	八洲学園高等学校	330.00 m ²	72,000 千円
大阪府堺市西区鳳中町	八洲学園高等学校	984.00 m ²	96,753 千円
大阪府大阪市中央区玉造	八洲学園高等学校	290.00 m ²	59,587 千円
沖縄県国頭郡本部町字備瀬礎摩原	八洲学園大学国際高等学校	21950.00 m ²	172,505 千円
沖縄県国頭郡本部町字備瀬礎摩原	八洲学園大学国際高等学校	1408.00 m ²	8,540 千円
沖縄県国頭郡本部町字備瀬礎摩原	八洲学園大学国際高等学校	724.00 m ²	4,380 千円
沖縄県国頭郡本部町字石川知場塚原	八洲学園大学国際高等学校	7275.00 m ²	28,366 千円
大阪府堺市西区鳳中町四丁	八洲学園高等専修学校	276.00 m ²	58,500 千円
大阪府堺市西区鳳中町四丁	八洲学園高等専修学校	836.00 m ²	50,400 千円
大阪府大阪市天王寺区玉造元町	E S A 音楽学院専門学校	261.93 m ²	47,337 千円
東京都新宿区新宿	法人本部	134.00 m ²	300,000 千円

イ) 建物

所在地	部門	専用面積	帳簿価額
神奈川県横浜市西区桜木町	八洲学園大学	4662.19 m ²	226,189 千円
東京都新宿区新宿	八洲学園大学	1112.15 m ²	27,488 千円
大阪府堺市西区鳳中町	八洲学園高等学校	683.93 m ²	17,933 千円
大阪府堺市西区鳳中町	八洲学園高等学校	304.98 m ²	2,533 千円
大阪府堺市西区鳳中町	八洲学園高等学校	1156.97 m ²	48,200 千円
大阪府大阪市中央区玉造	八洲学園高等学校	1145.17 m ²	112,850 千円
沖縄県国頭郡本部町字備瀬	八洲学園大学国際高等学校	2993.62 m ²	261,497 千円
大阪府堺市西区鳳中町	八洲学園高等専修学校	1010.94 m ²	3,205 千円
大阪府大阪市天王寺区玉造元町	E S A 音楽学院専門学校	907.59 m ²	5,611 千円
福岡県那珂川市片縄北	福岡女子商業高等学校	10741.80 m ²	273,091 千円
東京都新宿区新宿	法人本部	90.90 m ²	5,965 千円

(4) その他

特に記載すべき事項はありません。

3. 財務の概要

(1) 決算の概要

①貸借対照表の状況

貸借対照表は、学園の財政状態の健全性、必要資産の保有状況について表示したものです。

資産の合計は9,564,233千円で、前年度に比べ455,251千円の増加となり、負債の合計は279,039千円で、前年度に比べ32,003千円の増加となりました。

結果、純資産の合計は9,285,194千円となり、前年度に比べ423,248千円の増加となりました。

②収支計算書の状況

ア) 資金収支計算書

資金収支計算書は、その年度の学園の諸活動に対応する全ての収入及び支出の内容を明らかにし、その年度における支払資金のてん末を明らかにしたものです。

当年度の収入は3,768,637千円で、前年度の繰越支払資金4,974,955千円を加算すると、

収入の合計は8,743,592千円となりました。

当年度の支出は3,319,717千円となり、翌年度の繰越支払資金は5,423,875千円となりました。

結果、翌年度の繰越支払資金は、前年度に比べ488,920千円の増加となりました。

イ) 活動区分資金収支計算書

活動区分資金収支計算書は、資金収支計算書に記載される資金収入及び資金支出の決算の額を、

「教育活動」「施設整備等活動」「その他の活動」の三つの活動に区分し資金の流れを表示したものです。

教育活動による資金収支差額は508,228千円となり、施設整備等活動による資金収支差額は△87,400千円、

その他の活動による資金収支差額は28,092千円となりました。

結果、支払資金の増加額は448,920千円となりました。

ウ) 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、会計年度の事業活動収入及び事業活動支出を明らかにするとともに、

基本金組入額を控除した会計年度の諸活動に対応する全ての事業活動収入及び事業活動支出の

均衡の状態を明らかにしたものです。

基本金組入前の当年度収支差額は423,247千円となり、基本金組入額△88,203千円を計上後の当年度収支

差額は335,044千円となりました。また、当年度収支差額335,044千円に前年度の繰越収支差額3,253,135

千円を加算した結果、翌年度繰越収支差額は3,588,179千円となりました。

(2) 経年比較

①貸借対照表

(単位 千円)

科目	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末
固定資産	4,282,378	4,164,150	4,087,961	4,013,530	4,016,639
流動資産	3,808,342	4,174,066	4,666,975	5,095,452	5,547,594
資産の部合計	8,090,720	8,338,216	8,754,936	9,108,982	9,564,233
固定負債	0	0	0	0	0
流動負債	214,159	213,348	250,258	247,036	279,039
負債の部合計	214,159	213,348	250,258	247,036	279,039
基本金	5,509,012	5,539,706	5,569,248	5,608,811	5,697,015
繰越収支差額	2,367,549	2,585,162	2,935,430	3,253,135	3,588,179
純資産の部合計	7,876,561	8,124,868	8,504,678	8,861,946	9,285,194
負債及び純資産の部合計	8,090,720	8,338,216	8,754,936	9,108,982	9,564,233

②収支計算書

ア) 資金収支計算書

(単位 千円)

収入の部	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
学生生徒等納付金収入	1,252,609	1,364,199	1,492,213	1,575,359	1,741,606
手数料収入	29,251	27,574	28,027	29,687	33,513
寄付金収入	228	799	379	11,846	6,978
補助金収入	280,739	243,559	280,660	295,559	355,605
資産売却収入	0	0	0	0	418
付随事業・収益事業収入	42,381	49,469	50,396	35,079	28,522
受取利息・配当金収入	2,765	2,187	1,985	1,748	1,510
雑収入	19,436	21,636	27,272	25,785	32,512
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	112,438	108,213	128,307	119,004	148,385
その他の収入	1,304,747	1,426,204	1,396,551	1,445,540	1,653,070
資金収入調整勘定	△197,544	△177,093	△199,963	△215,962	△233,482
前年度繰越支払資金	3,339,012	3,672,621	4,076,975	4,544,429	4,974,955
収入の部合計	6,186,062	6,739,368	7,282,802	7,868,074	8,743,592
支出の部	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
人件費支出	784,211	837,124	884,361	941,539	1,047,758
教育研究経費支出	315,816	333,639	354,158	391,823	420,928
管理経費支出	178,893	169,617	176,966	193,968	198,956
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	64,878	28,183	18,805	10,036	62,066
設備関係支出	250	3,380	15,581	28,492	28,187
資産運用支出	0	0	0	0	0
その他の支出	1,178,078	1,298,978	1,300,348	1,341,432	1,579,250
資金支出調整勘定	△8,685	△8,528	△11,846	△14,171	△17,428
翌年度繰越支払資金	3,672,621	4,076,975	4,544,429	4,974,955	5,423,875
支出の部合計	6,186,062	6,739,368	7,282,802	7,868,074	8,743,592

② 収支計算書

イ) 活動区分資金収支計算書

(単位 千円)

科 目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	1,601,677	1,683,568	1,846,009	1,924,423	2,165,961
教育活動資金支出計	1,278,920	1,340,379	1,415,484	1,527,330	1,667,642
差引	322,757	343,189	430,525	397,093	498,319
調整勘定等	△ 7,605	33,458	1,803	△ 7,500	9,909
教育活動資金収支差額	315,152	376,647	432,328	389,593	508,228
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	0	661	7,723	20,131	10,792
施設整備等活動資金支出計	65,128	31,563	34,386	38,528	90,253
差引	△ 65,128	△ 30,902	△ 26,663	△ 18,397	△ 79,461
調整勘定等	25,531		△ 2,102	2,102	△ 7,939
施設整備等活動資金収支差額	△ 39,597	△ 30,902	△ 28,765	△ 16,295	△ 87,400
小計 (教育活動資金収支差額+ 施設整備等活動資金収支差額)	275,555	345,745	403,563	373,298	420,828
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	1,212,274	1,349,143	1,359,495	1,383,898	1,589,403
その他の活動資金支出計	1,154,220	1,290,534	1,295,604	1,326,670	1,561,311
差引	58,054	58,609	63,891	57,228	28,092
調整勘定等	0	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額	58,054	58,609	63,891	57,228	28,092
支払資金の増減額 (小計+ その他の活動資金収支差額)	333,609	404,354	467,454	430,526	448,920
前年度繰越支払資金	3,339,012	3,672,621	4,076,975	4,544,429	4,974,955
翌年度繰越支払資金	3,672,621	4,076,975	4,544,429	4,974,955	5,423,875

② 収支計算書

ウ) 事業活動収支計算書

(単位 千円)

		科目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	1,252,609	1,364,199	1,492,213	1,575,359	1,741,606
		手数料	29,251	27,574	28,027	29,687	33,513
		寄付金	228	138	379	6,846	6,978
		経常費等補助金	280,739	243,559	272,936	280,427	345,231
		付随事業収入	19,414	26,462	25,182	6,319	6,121
		雑収入	19,436	21,636	27,272	25,785	32,512
		教育活動収入 計	1,601,677	1,683,568	1,846,009	1,924,423	2,165,961
		支出	人件費	784,211	837,124	884,361	941,539
	教育研究経費	395,959	412,988	438,006	482,016	529,497	
	管理経費	181,742	171,802	178,693	195,273	200,104	
徴収不能額等	0	0	61	0	0		
教育活動支出 計	1,361,912	1,421,914	1,501,121	1,618,828	1,777,359		
教育活動収支差額			239,765	261,654	344,888	305,595	388,602
教育活動外収支	収入	受取利息・配当金	2,765	2,187	1,985	1,748	1,510
		その他の教育活動外収入	22,966	23,007	25,214	28,760	22,400
		教育活動外収入 計	25,731	25,194	27,199	30,508	23,910
	支出	借入金等利息	0	0	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出 計	0	0	0	0	0
教育活動外収支差額			25,731	25,194	27,199	30,508	23,910
経常収支差額			265,496	286,848	372,087	336,103	412,512
特別収支	収入	資産売却差額	0	0	0	0	418
		その他の特別収入	0	661	7,723	21,165	10,374
		特別収入 計	0	661	7,723	21,165	10,792
	支出	資産処分差額	37	39,202	0	0	57
		その他の特別支出	0	0	0	0	0
		特別支出 計	37	39,202	0	0	57
特別収支差額			△ 37	△ 38,541	7,723	21,165	10,735
基本金組入前当年度収支差額			265,459	248,307	379,810	357,268	423,247
基本金組入額合計			△ 38,546	△ 31,288	△ 29,693	△ 39,562	△ 88,203
当年度収支差額			226,913	217,019	350,117	317,706	335,044
前年度繰越収支差額			2,138,950	2,367,549	2,585,162	2,935,429	3,253,135
基本金取崩額			1,686	594	150	0	0
翌年度繰越収支差額			2,367,549	2,585,162	2,935,429	3,253,135	3,588,179

(参考)

事業活動収入 計	1,627,408	1,709,423	1,880,931	1,976,096	2,200,663
事業活動支出 計	1,361,949	1,461,116	1,501,121	1,618,828	1,777,416

(3) 主な財務比率比較

(単位 %)

比率名	算式	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	48.1	48.9	47.2	48.2	47.8
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	24.3	24.2	23.4	24.7	24.2
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	11.1	10.1	9.5	10.0	9.1
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒納付金}}{\text{経常収入}}$	76.9	79.8	79.7	80.6	79.5
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	16.3	14.5	20.2	18.1	19.2
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}-\text{基本金組入額}}$	85.7	87.1	81.1	83.6	84.1
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	16.3	16.8	19.9	17.2	18.8
教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	14.9	15.5	18.7	15.9	17.9
純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{負債}+\text{純資産}}$	97.3	97.4	97.1	97.3	97.1
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	1778.2	1956.5	1864.9	2062.6	1988.1
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	2.7	2.6	2.9	2.8	3.0
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9

(4) その他

①有価証券の状況

区分	銘柄	数量	帳簿価額	時価	表示科目
株式	(株)神戸製鋼所	500	277,043円	1,028,000円	有価証券
株式	南海電気鉄道(株)	6,200	4,850,460円	19,784,200円	有価証券
計		6,700	5,127,503円	20,812,200円	

②寄付金の状況

寄付金の種類	寄付者	金額	摘要
特別寄付金	卒業生・保護者・受配者指定寄付金	6,600,000円	福岡女子商業高等学校
一般寄付金	卒業生・保護者 他	378,384円	八洲学園大学 福岡女子商業高等学校

③収益事業の状況

駐車場業及び不動産賃貸業を行っており、その状況は次のとおりである。

(単位 千円)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
流動資産	8,158	8,244	7,963	9,145	9,012
固定資産	184,118	179,317	174,574	183,913	178,456
資産合計	192,276	187,561	182,537	193,058	187,468
流動負債	7,119	6,532	6,494	8,594	5,859
固定負債	0	0	0	0	0
負債合計	7,119	6,532	6,494	8,594	5,859
純資産合計	185,157	181,029	176,043	184,464	181,609
負債・純資産合計	192,276	187,561	182,537	193,058	187,468
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
売上高	47,379	51,520	47,879	54,893	54,553
販売管理費	51,737	53,595	50,494	57,924	54,801
営業外損益	0	0	0	0	0
当期純損益	△4,358	△2,075	△2,615	△3,031	△248

④関連当事者等の取引の状況

ア) 関連当事者 イ参照

イ) 出資会社(学園が2分の1以上の出資をしている会社)

会社等の名称	事業内容	資本金等	出資割合	取引の内容	人事上の関係
株式会社ドードス	学習塾	10百万円	100%	—	役員1名 取締役を兼務
株式会社SOBAエデュケーション	情報サービス	60百万円	50%	支払額 3276万円	役員1名 取締役を兼務
学校運営機構株式会社	経営コンサルティング	31百万円	96.7%	受入額 252万円 支払額 3599万円 貸付金 13200万円	役員1名 取締役を兼務
株式会社イノーヴィンタラクティブ	情報サービス	30百万円	100%	受入額 120万円 支払額 2077万円	役員1名 取締役を兼務

以上